

文理科学科

福高はあなたの「みらい」を応援します！

「みらい学」とは

研究活動を通して分析力、仮説検証力、問題解決能力を培い、自らの適性について考えるとともに進路実現に資する能力を育む取組です！

文理科学科では、学校設定科目として「みらい学」を教育課程に置き、生徒にさまざまな学問に対する興味・関心を高め、発展的な理解につなげる学習を展開しています。

「みらい学Ⅰ 研究交流会」開催！自分たちの研究成果を“自分の言葉”で堂々と発表

1年生にとって初めての研究発表となる「みらい学Ⅰ 研究交流会」が5月8日（土）に開催されました。4月17日（土）、農学に関する特別講義で神戸大学大学院農学研究科教授の土佐幸雄先生が生徒たちに「食べる」ことに関する4つの課題を提示されました。この研究交流会において、その課題の中から選んだ課題について、各班が図書館やコンピュータ教室で研究活動に取り組んだ成果をポスターセッション形式で発表しました。

<ポスターセッションとは？>

発表者が研究成果や調査報告をまとめたポスターを掲示し、そのテーマについて発表します。発表者が一方的に発表するだけでなく、テーマに関心のある参加者と意義ある討論をしたり、発表を聞いている人から直に質問を受けて回答するなかで、そのテーマについてお互いの理解を深めていきます。



生徒たちは、4月20日（火）から各班で研究活動に入り、短期間でしたが協力して立派なポスターを作成しました。交流会当日は、テーマを提示していただいた神戸大学の土佐幸雄先生をお招きし、多くの保護者が参観されるなか、10班が同時進行で、一人12分の発表を2回、ポスターの横に立って行いました。

生徒たちは最初は緊張して発表していたものの、参観者との議論を通して少しずつ、自信を持って自分の言葉で説明できるようになっていきました。

この研究交流会を通して、生徒たちは、
研究したことを“伝える手法”
他の班の発表を聞くことによって、“**他から学ぶ”姿勢**
人を引きつける**ポスター作成の工夫**
発表に求められる**コミュニケーション能力**など多くの
ことを学びました。

この経験を次の研究活動にいかし、よりレベルの高い発表へつながっていくことを期待しています。なおこの取組の様子が京都新聞の取材を受け、5月9日(日)に掲載され高く評価されました。



1年6組8番 梅原 永遠 六人部中学校出身
今日、みらい学の研究発表があり、多くのことを学びました。まず、人に分かりやすく伝えることの難しさです。普通にいつも話している人でも緊張しました。しかし、回を重ねるごとに成長している自分がいても嬉しかったです。次に質問に答えることの難しさです。とても多くの知識がないと答えられません。研究の大切さを実感しました。とても嬉しかったです。みんなと協力して研究を進めること。自分が調べたことを発表すること。本当に嬉しかったです。今度のみらい学も頑張って達成感のある発表にしたいです。



1年6組39番 前田 彩英 川口中学校出身

今日は初めてのみらい学の研究交流会で、「誰も聞いてくれる人がいなかったらどうしよう。」という不安でいっぱいでした。しかし、少し声をかけると数人来てくれて質問もたくさんしてくれたのが嬉しかったです。今回2回発表し、1回目は自分が言いたかったことが上手く言えなかったけど、その経験を生かし2回目は自分としては上手く言えて達成感がありました。他の班を回るとポスターの書き方が上手い班、話し方が上手い人、よい質問をたくさんしている人がいて刺激を受けました。自分がまだまだだと気付かされて少し落ち込むけど、始めに校長先生が言っておられたように「まね」をして、これからにつなげていければいいと思いました。次のみらい学では、今回の経験を生かしたいです。

「みらい学Ⅱ」

個々の関心の高い学問の研究を通して、「みらい」を切り拓く力を育成します！

2年生は昨年の「みらい学Ⅰ」においてグループを中心に研究活動に取り組んだ経験を基に、今年度は個人での研究活動を開始しました。昨年の「みらい学Ⅰ」で学んだ様々な学問分野を参考に、生徒各自が自分の興味関心のあるテーマを設定し、研究活動に取り組みます。毎週2時間の「みらい学Ⅱ」の研究活動は、授業の事前準備として「自分が何を調べ、どこまで研究活動を進めるか。」が重要なポイントとなります。担当の先生から、アドバイスをいただきながら、自分に妥協することなく、研究を深化させ、仮説・検証を繰り返すことにより、結論を導いていきます。

